

当園ではこの度、平成28年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

- 一人ひとりの幼児を大切にし、心の豊かさ・明るさ・秩序責任、土と風と太陽に親しみ、より丈夫な身体を育成し21世紀の社会に貢献し得る人格の基礎づくりを指導しています。
- ☐ 協同と自主自立の精神を養う
- ☐ 豊かな情操と感覚を養う
- ☐ 創造性と思考力を養う
- ☐ 健康で明るく、心の豊かさを養う

II. 今年度の重点目標

- 教職員の育成

●子ども達への指導とかかわり

●教員同士の情報共有

●防災訓練の質の向上

●安全管理体制の強化

●地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教職員の育成	職員間の情報共有のみならず、園外研修や外部の専門家から情報収集し、保育のレベルを園全体で向上する。	B	先輩の先生から助言を受けてよりよくなるように努め、子どもと接する中で自身の保育を改めていく意識付けを行った。全職員が研修へ参加し、その資料を持ち帰って今後の保育に活かそうという姿勢が見られた。研修で学んだことをはじめ、職員会議の場では気になったことをその都度話して問題解決し共有している。園外研修においても自分自身が学んだことを他の職員と伝えあい理解を深められているが、まだ保育へ十分に切り入れられてはいない。研修内容について、今後はより印象に残る内容のもの、気づきが得られるものを選びさらに保育のレベルを向上させていきたい。
2	子ども達への指導とかかわり	子どもの情報を共有することによって、子どもに合わせた指導内容を検討して、指導できるようにする。形式的にならずに常に新しい気持ちで子どもに接する。	A	子どもたちの情報は十分共有し、子ども一人ひとりに対して指導方法を考えて保育に反映させる取り組みを行った。新入園児には職員全体でフォローし子どもに合わせて根気よく言葉かけすることを心掛け、毎年そのクラスに合った楽しみ方、過ごし方を見つけて一緒に楽しみ、成長が見れるような雰囲気づくりを心掛けた。日常の保育の中で困っていることや実施してよかった事、指導方法などを職員間でお互いに話し合い、色々な情報を得て経験談を聞く中で新しい方法や考え方に会うことが出来た。引き続き行事やイベントの前後は職員間で打ち合わせと振り返りをしっかりと行い、保育の経験によらずお互いが思いを述べる事が出来る環境を整えていく。

評価項目		取組み内容	取組み状況	
3	教員同士の情報共有	反省会では自分の報告だけではなく、お互いの良いところを言い合うようにして各自の能力開発に努める。 反省点だけで終わらせず、改善点まで話し合うように取り組み実行して行く。	A	毎月末に職員同士で反省会を行い、子どもの様子や今後の保育をどのように進めていくのかについて意見を出しあっている。各職員も自分のことはよく分かっていないところがあり、他の人に客観的に見てもらう事は大切であり継続していきたい。お互いに良いところ悪いところを話し合い、保育を見直す機会を設けて前担任や先輩からアドバイスをもらい、その子どもに合う指導を考え教えあって保育を良いものにしている。解決策等をいろいろな人と話す事で様々な角度からの見方が出来て職員各々にあった指導方法が見つかった。
4	防災訓練の質の向上	現時点では避難訓練も行っており、災害に関する意識も高まってきているが、園内・対外的にもマニュアル作成の必要性を感じている。	B	避難訓練ではどのように逃げるのか、避難方法が子どもたち自身に身についてきている。防犯訓練と交通安全の指導を受けて、子どもたちも避難場所へ素早く移動することが出来てきて、警報が誤作動した時も子どもたちは悩まず集合場所に避難できていた。一方でマニュアルについて教職員間で認識を統一していく取組みを今後も続けていく。火事の避難訓練が中心であるため、地震や津波などの災害発生時の訓練実施を検討していくとともに、避難時に職員と園児に少し真剣さが欠けてきているので、避難訓練の意味と重要性を再度しっかりと紙芝居等で伝えていく。
5	安全管理体制の強化	点検表を活用し、運用方法を定めて安全管理体制を整備する。事前対策（リスクマネジメント）と事後対策（ロスコントロール）の仕組みを整え、園の安全管理に努める。	B	遊具での事故が極力無いように職員間で分担をして子どもたちの状況から優先順位をつけて見守っている。登降園時は正門に立ち扉の開閉や子どもの飛び出しに特に注意を払い事故発生を防いでいる。感染症の流行に備えて普段からすぐに消毒するように心掛けており、素手での片付けが困難であるため各クラスに使い捨てのビニール袋を備えている。戸外遊びの時に遊具などを注意して点検して回っているがその記録はまだまだ不十分であり、定期的に点検表などへ結果記録をするように検討し、遊具や部屋の設備も含めて安全を再確認するため各職員が責任を持って点検を続けて取り組んでいく。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	園庭開放の内容やスケジュールの見直し・ポスター等、千寿幼稚園を知ってもらう為の取組みを再検討する。 何のために園を知ってもらうのかという目的を共有し、取り組む。	A	園庭やプール開放、バザーや作品展の開催を通じて地域の人との交流が図れている。園庭開放ではまだ未就園児の子が少ないが、来てくれた子どもたちはホームクラスの園児と一緒に戸外で楽しく遊んでいる。正門、掲示板、バスにポスターやスケジュールを貼り、現在の取組みをアピールした結果、園から少し離れた地域からも入園児が増えてきた。隔週ごとに参加者を募ってシャボン玉遊びや簡単なゲームを今後も工夫して行っていきたい。

【評価の基準】	
S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取組みが不十分である

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

1	教職員の育成	研修や外部の専門家から得た知識やスキルを、日々の保育に工夫して取り入れて園全体の保育レベル向上に努める。
2	子ども達への指導とかわり	子どもの成長に合わせた保育内容を実施し、教職員全員で丁寧な声掛けや指導を継続して心掛けていく。
3	教員同士の情報共有	園全体で意見交換を行い、アドバイスや意見をもとに教職員間の連携をさらに強化していく。
4	防災訓練の質の向上	火災発生時の避難訓練に加えて地震発生時の訓練実施を計画するとともに、マニュアルについて教職員間で認識の統一を図っていく。
5	安全管理体制の強化	遊具の安全見回りを定期的に行い、その点検結果を記録して園の安全管理体制について取組みを強化する。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	未就園児を対象した園庭開放や工夫したイベントを継続実施して、園の活動内容を地域へ広める取組みを行う。

## V. 学校関係者の評価

・子どもたちが楽しい園生活を送れるように、先生方は今後も明るく笑顔で日常の保育指導を継続していただきたいと思います。

・行事の日程を見直される等、新たな取り組みや工夫をされていることが伺えます。より参加しやすくなるように、近隣の行事ともうまく日程調整をしてほしいです。

<後援会会長>

・子どもたちがすごく元気でのびのびしており、大変好感を持つことができます。園の特色を作ってもらい、保育内容をさらに充実させてほしいと思います。

・災害発生時の対応を強化するため、避難場所やその方法及び手段について、園と保護者間での連携をより深めてほしいです。

・園の安全管理体制強化のために、門戸の施錠確認を徹底し、不審者侵入対策につなげてほしいです。

・感染症や流行性の病気に備えるために、感染症の拡大やウイルス蔓延の予防と対策について、保護者の意見や協力を得ながら取り組んでいただきたいと思います。

<後援会副会長>

以上